

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2473100143
法人名	社会福祉法人エイジハウス
事業所名	グループホームひぐらし
所在地 (電話番号)	南牟婁郡御浜町神木23 (電話) 05979-2-4320
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 8 月 10 日(金)

【情報提供票より】 (H19年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12人, 非常勤 6人, 常勤換算 12人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	65,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,400円		

(4) 利用者の概要(7 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	3 名	要支援2	名
年齢	平均 83 歳	最低 64 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	紀南病院、和田医院、熊野病院、協立医院、友紀歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな里山の一角に位置する立地条件のよさに加え、現在働いている職員間の意思疎通のよさが、利用者の安心感や安定につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	臭いが気になるトイレがあったが、きちんと防臭対策が施されていた。また介護計画の見直しも定期的(3ヶ月に1回)と特別な変化があれば随時見直すよう改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が管理者と一緒に自己評価に取り組む中で、色々な気づきや発見があり、具体的な取り組みに生かしていくことが出来ている
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	現在運営推進会議は設置されていないが、新事業の立ち上げ準備と併せて、今年度中に立ち上げる予定で準備を進めている。現在法人の評議会に家族も参加してもらって結構厳しい意見を出してもらっている。なのでその経験も活かしていく。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	近くの温泉を利用して、利用者、家族スタッフとの食事会を取り組んだり、家族会や、評議会などを通じて意見や苦情を出してもらえるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の災害訓練に参加したり、夏祭りの取り組みにボランティアの応援を得たり、地域の祭りに参加したり、地域との連携が強く保てるように日常的に心がけている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域で必要とされる施設となるために、生活全般の専門性と生活の質の向上に努めることを理念とし、1.思いやりを大切に 2.希望を叶える 3.食事を大切に 4.居場所を作る 5.関わりを持つ 6.地域へ参画 7.技術を大切にすることで生活を支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	その人らしく暮らしてもらうために、『ふるさと訪問』と名付けて利用者の生まれ育った場所、地域などを利用者の希望に合わせて単発で訪問したり、遠足を兼ねて訪問したりして喜んでもらっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の色々な取り組みに参加すると共に、散歩の折などには気軽に声をかけるようにしているので、地域の人たちもホームの利用者を知ってくれて見守ってくれる。地域の人達から声かけをしてもらえることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を担当者だけに任せず、職員も一緒になって行うことにより、色々な気づきが得られるし、外部評価の結果も職員家族にも分かりやすいように、広報誌に載せたり窓口に置くなど、皆のものにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ立ち上げていないが、年内に立ち上げる準備をしており、法人の評議員に参加してもらっている家族の人たちの意見もよく反映してもらえるように工夫している。	○	現在、まだ運営推進会議を設置していないが、今年度中に立ち上げる準備をしているとの事なので、出来るだけ早く実施していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームも含めた法人全体で、町役場に緊急対応についての指導を依頼したり、行き来する機会は積極的に作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌『ぼかぼかだより』を通じて普段の生活状況を定期的に報告すると共に、面会時にも出来るだけ報告するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族スタッフが一緒の食事会を開催して、意見や苦情を言える場を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限にとどめることを基本にしてとりにくんでいるが、例えば産休等、やむを得ぬ事情で今年も異動は行ったが、利用者の負担にならない様に、馴染みの関係を損なわない配慮をした結果、利用者、職員共に、大変落ち着きを得ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修受講者が講師になって2ヶ月に一回伝達研修を行うと共に、年に1回、ケース記録の書き方の研修を、また、感染症の対応に関する研修もするべく、県社協に講師派遣の依頼をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入し、情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	例えば、施設入所をしている人の中でも、グループホームのほうが適しているとして希望が出された場合など、体験入居の様に少しずつ通ってなじんでもらうようにしている。いきなりのサービス開始にならないように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い男性スタッフの調理当番の際、利用者が手ほどきをしてくれるなど、利用者の豊かな経験を学ばせてもらえることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくり寝たい、ビールを飲みたい、パチンコに行きたい…等一人ひとりの思いや希望を大切に可能な限り実現させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会の際、家族の意向を聞かせてもらうとか、検討会議を通じて職員の意見をまとめた上で介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特別な変化があれば、随時見直しをするが、そうでない時は、3ヶ月に一回見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在はまだ多機能性は発揮できていない。	○	現在、空床を生かしてのショートステイや、多機能性を発揮するための方策を研究中であり、今後へ期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得を得られたかかりつけ医との信頼関係の下に、適切に対応できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についての学習をして、全員で方針を共有できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねないように言葉遣いのマニュアルを作り実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買物などできるだけ希望に沿えるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		○食事を楽しむことのできる支援			
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日は買いだしを一緒にしたり、月に2回は好きなものを選ぶ選択メニューにしたり、食事が楽しめる様に工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中、午後、夕方、とできるだけ希望に添えるようにすると共に、湯温も希望にあわせるとか、不穩の人は、タイミングを見て行動前に入浴してもらうなど工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物好きな人は、雑巾作りやボタンつけを、野菜作りの好きな人は野菜作りを、台所仕事の好きな人は調理の下ごしらえや、配膳下膳の手伝いを・・・というようにそれぞれ好みや特技を生かして過ごしてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年に4回は遠足を全体で取り組み、普段は近所周りへの散歩を、個々に対応しながら楽しんでもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯上のためかけるが、昼間は鍵をかけないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域での防災訓練に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量など、一人ひとりの状態をきちんと記録にとって支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回、前々回の調査時に感じられた不快な臭気は、改善されていて、快適な空間づくりがされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見せていただいた部屋は、家族が用意したものや本人の好みの物を置いてあり、居心地よく過ごせるように工夫されていた。		